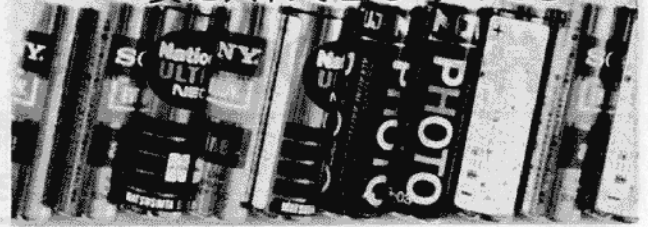
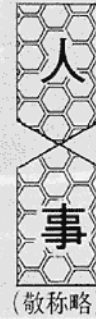


使用済み乾電池は 袋に入れて出してください



には、多量の水銀が含まれており、燃やすと大気汚染の原因にまた、捨てる土じょう汚染の原因になります。

このため市では、使用済みの乾電池は、ビニール袋や紙袋に入れて「乾電池」と表示して不燃物ステーションに捨てるか、



◆日光市野球連盟

▽会長 石川道義（会長代行 北条吉三）

◆社会教育委員会

▽委員 竹中幸司（弓手弘二）
▽委員 星野秀男（酒井登）

◆自治会長

▽清滝丹勢町 上山紀彦（斎藤寿雄）
▽清滝和の代町 星野豊

新しいものを買うとき販売店に引き取ってもらおうかするよう、協力を呼びかけています。

現在、乾電池の収集を市内全域で実施しているのは、県内では日光だけです。

皆さんのご協力をお願いいたします。

（星野貞夫）▽中小来川 植木千之（大橋一博）▽滝ヶ原 佐藤盛雄（佐藤延生雄）▽和泉手塚福治（北山太一）

◆日光市消防団

▽第四分団長 土沢一男（大石殷照）
▽第七分団長 斎藤克己（吉新良次）
▽第十分団長 福田孫表（大橋仁一）

◆日光市都市計画審議会

▽専門委員 日光電報電話局長 石丸勝重（同前局長佐鹿康夫）

ご協力ありがとうございました

野生鹿救護に百十五万円

今年例年になく豪雪と寒さのため、日光山系に生息している野生シカがエサ不足から餓死したり、住宅地付近までエサを求めにやってきましたりして、人家への被害も心配されることなど

から、三月二十三日、日光市野生シカ対策協議会を発足させ、現在まで週一〜二回の割でエサの投与を行ってきました。この間、市民の方々ははじめ日光の自然を守る会、猟友会や

今後は雪解けとともにこれらの野生シカも徐々に山に帰るものと思われまます。ご協力をいただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

県内外から野生シカ救護の募金が寄せられ、その額は三十四件百十五万七千九百四十五円に達しました。

シリーズ

言葉の十字路口

昔は「良妻賢母」と書いたが、いまは「料妻健母」と書く子がいるという。料理のうまい奥さん、健康なお母さんということ、なるほど

具体的である。こんなふうに、意図的に、フリーリングを重んじて漢字を操作するのが、いまの若い人たちのあいだに流行している。たとえば、「親友」は「心友」、「能力」は「脳力」に、意味より感じが出ていれればいいというので、これが感字。「痛勤電車」「疲労宴」「公臭便所」などいろいろある。歌の題にも、「愛愁」というのがあって、これは「哀愁」を意識的にひねったものなのだ。それから「殉愛」。これも「純愛」の誤字ではないのである。

もつとも、誤字も多い。これは、戦後まもなくの、石坂



さらには、「出発」を「たびだち」と読ませるうたがあつたが、学生たちのあいだには、「献立」を「メニュー」、「懐」を「ポケット」などとしてビをふる傾向もあるらしい。



こうした感字の生まれる素地は、漢字そのものに常識で判断できないややくしきがあるためだ。たとえば「サイクン」は、常識でいけば「妻君」だが、正解は「細君」。おとなり、中国の故事からきているのである。もうひとつ、漢字の一字表現が流行している。「彼女つたら、ソク、行くつていうのよ」などという言い方はやっている。カレーのコマーシャルからの流行だが、この「ソク」は「即」、これまでだったら「スグ」とか「即座に」と言つたところだろう。